

中国の輸出規制でAPTは史上初の\$600台へ到達

タングステンの中間原料・APT（パラタングステン酸アンモニウム）の国際相場は、中国の輸出規制の影響で3月以降上昇を続け、7月下旬に14年ぶりに過去最高値を更新。以降も上値を追い続け足元では600ドルを突破している。需要面では、主用途の超硬工具が盛り上がり欠く一方、中国では審査遅れから出荷が滞っており、供給懸念が強まっている。タングステンの中間原料・合金鉄・スクラップを長らく取り扱ってきたNIC Resourcesの西野元樹社長に今年10～12月の相場見通しを寄稿してもらった。

APT相場は中国の輸出規制で最高値更新続く

タングステン中間原料であるAPTの国際相場（CIFロッテルダム/バルティモア）は、9月末時点で580～650ドル/Mtu、中値ベースで600ドルを突破し、史上最高値を更新している。7～9月の相場見通し（既報・7月1日号）では「450～500ドルレンジ」を予測していたが、7月下旬に475ドル、8月下旬には500ドル、さらに9月中旬には600ドルを超えるなど短期間で急騰した。

中国の輸出許可制度で相場支配力が復活

今回の急騰の背景にあるのは、中国が今年2月4日に導入したAPT・酸化タングステン（YTO）・炭化タングステン（WC）粉への輸出許可制度である。その結果、中国の相場支配力が復活した。APT国際相場の過去のピークは2011年の480ドルで、次のピークとなる2018年は360ドル止まりだった。これは西側でのリサイクルや精鉱製錬の増加により、中国からのスポット購入が大幅に縮小したためで、その結果、中国相場の国際相場への影響は限定的となった。

だが、今回は輸出許可制度の導入により、中国との取引はスポットが主流となり、中国内相場が直接、国際相場に影響を与える構造に変化した。

中国精鉱価格は29万元を突破し過去最高水準へ

中国内精鉱価格も過去最高を更新。7月の見通しでは

「中国精鉱相場17万元/t突破」に触れていたが、9月中旬にはそれを大きく上回り、29万元（約625ドル/Mtu）まで上昇。これにともない、中国内APT価格は41万元/t（約650ドル/Mtu）に達し、国際相場を大きく上回った。

一方、中国の精鉱輸入量は北朝鮮やミャンマー、カザフスタンからの調達が増え、今年1～8月で11,563tと前年同期比75%増。だが、高品位鉱石の枯渇や新規鉱山開発の遅れで供給は逼迫し、精鉱・APTともに8月以降急騰した。

Q4は中国内価格の高値維持で\$600台が常態化か

APT相場は5月中旬に400ドルを超えてから上昇局面に入り、6月には輸出許可の発給が始まった。だが、9月以降は中国内相場の急騰により、新規見積りが停滞している。発給量は当初予想より多いが、今後の発給動向は不透明である。

9月下旬以降、中国内相場は調整に入ったものの、精鉱27万元（約582ドル）、APT39万元（約618ドル）と高値を維持。調整幅は限定的であり、中国内相場が国際相場を上回る状況は続いている。この水準が続けば、国際相場も中国内相場に応じて650ドル近辺まで上昇すると考えられる。

今後については、中国の鉱山・製錬業者が安値売りを控える限り、中国内相場は足元の水準を維持し、10～12月のAPT国際相場は615～685ドルのレンジで推移すると予測する。